

令和4年度

健康福祉サービス自己評価結果報告書

報告書の内容

添付書類	添付した書類に○を記入
チェック済評価基準	○
評価基準概評	○
サービス改善計画	○

施設・事業所名：児童発達支援・放課後等デイサービス ハイタッチ

健康福祉サービス自己評価実施状況報告書

令和 5 年 4 月 28 日

大津市福祉部障害福祉課長 あて

(所在地) 滋賀県大津市富士見台 54 番 40 号
(施設・事業所名) 児童発達支援・放課後等デイサービス ハイタッチ
(代表者職・氏名) 代表取締役 富元 重幸

健康福祉サービス自己評価を、「本県における健康福祉サービス評価システムの推進について」により実施しましたので、下記のとおり報告します。

記

1 施設・事業所の名称

株式会社 ピースラボ
児童発達支援・放課後等デイサービス ハイタッチ

2 評価基準およびサービスの種別 (該当の記号に○印を付し、サービスの種別を記入)

○評価基準

ア 障害福祉サービス共通評価基準① [障害者/施設、グループホーム]
(種別:)

イ 障害福祉サービス共通評価基準② [障害者(児)/在宅]
(種別:)

ウ 放課後等デイサービス自己評価表

エ 児童発達支援自己評価表

オ その他の評価基準 (具体的に:)

※種 別 (記入例: 就労継続支援 B 型)

3 自己評価の実施時期 (自己評価結果をとりまとめた時期)

令和 5 年 4 月

4 県のホームページで、自己評価を実施した施設・事業所の名称、所在地、実施時期、事業所での評価結果の公表の有無を情報提供することについて

提供してもよい

提供しないでほしい

5 自己評価結果の公表の有無（該当するところを○で囲む）

①市町への送付

しない

②滋賀県健康福祉事務所への送付

しない

③県庁障害福祉課への送付

しない

④施設・事業所内での閲覧提供

しない

⑤インターネットのホームページ

しない

⑥その他の方法での公表

（具体的に：

）

6 サービス改善計画の公表の有無（該当するところを○で囲み、括弧内に記入）

①市町への送付

しない

②滋賀県健康福祉事務所への送付

しない

③県庁障害福祉課への送付

しない

④施設・事業所内での閲覧提供

しない

⑤インターネットのホームページ

しない

⑥その他の方法での公表

（具体的に：

）

7 自己評価を実施して感じたこと、評価基準・ガイドライン等への意見やサービス評価について今後望むこと

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果(公)

公表:令和 5年 4月 28日

事業所名 放課後等デイサービス ハイタッチ 保護者等数(児童数) 33 回収数 27 割合 80 %

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	18	6	3			
	2	職員の配置数や専門性は適切であるか	21	5	1			
	3	事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	16	7	4			
適切な 支援の 提供	4	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画*1が作成されているか	22	4	1			
	5	活動プログラム*2が固定化しないよう工夫されているか	18	7	2			
	6	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	6	12	9		利用回数が少ないので、知らないだけかも知れませんが。	その意義について、改めて職員間で議論していきたい。
保護者 への 説明等	7	支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	24	2	1			
	8	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	20	6	1			
	9	保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	15	9	3			
	10	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	3	9	15		コロナ禍だったので難しく、今後は希望の人のみで可だと思います。	その意義についての議論は継続していきたい。
	11	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	19	8			状況的に不可だったので、その対応を下さってありがとうございます。	「第三者」を入れた「苦情処理委員会」の設置に向けた議論を進めたい。
	12	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	21	4	1	1	送迎の時に今日の様子など、もう少し詳しく教えてもらえるとありがたい。	保護者と話す時間的な制約を考慮しつつ、更に保護者のニーズに応えていきたい。
	13	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	9	14	4			
	14	個人情報に十分注意しているか	22	5				
非常時 等の 対応	15	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	12	12	3			
	16	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	10	14	3			
満足 度	17	子どもは通所を楽しみにしているか	24	2	1			
	18	事業所の支援に満足しているか	22	3	2		一人遊びをしていることが多いので、もう少し関わってもらえたらと思います。	ケース会議やミーティング時のケース検討をより充実させていきたい。

*1 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的な内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

障害福祉サービス共通評価基準 概評 [各シート共通]

○概 評

①非該当とした項目（放課後等デイサービス、児童発達支援については「いいえ」とした項目）の説明、②独自に必要なと思われる評価項目等、③項目評価を通じて気づいた点などを記入してください。

放課後等デイサービスについて（保護者等からの事業所評価）

「環境・体制整備」の項目では、多くの保護者から「バリアフリー化の配慮が適切になされて」いないとの評価を頂いた。特に、玄関の高い階段への対策については今年度も検討を要すると考えている。

「適切な支援の提供」については、「放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか」への評価が、「どちらともいえない」「いいえ」が圧倒的に多かった。本年度にあっても継続課題として残った。

「保護者への説明責任等」では、「子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか」について、一保護者からは送迎時に児童の様子をもう少し詳しく教えて欲しいとのご意見を頂いた。次の送迎を控えた時間的な制約があるが、保護者のご要望には応えていきたい。

「非常時等の対応」に於いては、「事業所の支援に満足しているか」の問い掛けに、3名の保護者が「どちらともいえない」と応じられ、2名の保護者が「いいえ」と応えておられる。それらを少数意見と捉えることなく、重く受け止めていきたい。

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5 年 4月 28 日

事業所名 児童発達支援・放課後等デイサービスハイタッチ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	2	2		少し狭い。2階のスペースの活用法を工夫したい。
	2	職員の配置数は適切である	4			
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	1	1		ご利用者の身体的成長に伴って玄関前の階段が支障を来している。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	2			
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5			
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5			
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	2		児発管が第三者を招いて支援内容を事業所全体で点検している。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	3	1		パート職員の内部研修を各学期が始まる前に実施している。正職員は外部研修にも積極的に参加するようにしている。
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	3			アセスメント時期をきちんと把握して実施していきたい。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	2	1		
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	4			
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	3			
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	3			
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	3			障がい特性に応じて個別支援が必要なご利用者は、年間を通じて恒常的にドライブを中心とした支援を実施している。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	3			朝のミーティング(正職員のみ)と、昼のミーティング(各学校へのお迎え前・パート職員を含め)を行っている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	2	1		お送りの支援終了時間が職員によってまちまちである為に、翌朝にミーティングを行っている。また、その記録を残している。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4			日誌の裏面にポイント的に記録している。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	3			
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	2			

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5				
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	4				
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	2	2			
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	5				実際に保育園に出向いて児童の生活場면을観察したり、先方のスタッフとの情報・意見交換に努めている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	1	2			その必要性は感じている。移行先のケース会議に当事業所は呼ばれなかった。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4				研修には極力参加するようにしている。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		4			
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	1	1			
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4				
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	2	1			
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5				
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5				
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		4			
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	4				
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	1	1			
	35	個人情報に十分注意している	5				個人情報管理の為に鍵付きロッカーの使用が形骸化しないように留意している。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5				
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	2			

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	5			職員(パート職員含む)には、各マニュアルのファイルを事務所内の所定の場所に置き「見える化」している。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	2			
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5			正職員が受けた外部研修の内容が、パート職員にも伝わるようにより徹底していきたい。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	4			今一つ徹底する必要がある。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	1		
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5			事例集を事務所内の所定の場所に置いて「見える化」している。

障害福祉サービス共通評価基準 概評 [各シート共通]

○概 評

①非該当とした項目（放課後等デイサービス、児童発達支援については「いいえ」とした項目）の説明、②独自に必要なと思われる評価項目等、③項目評価を通じて気づいた点などを記入してください。

放課後等デイサービスについて（事業所に於ける自己評価）

「環境・体制整備」の面で、「利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である」の項目については、職員間の意見が二分されている。いずれにしても、2階スペースの活用について工夫していきたい。バリアフリー化については、玄関先の高い階段への対策が継続課題である。

「業務改善」については、「保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている」ことを職員全員が認識出来ている。

「適切な支援の提供」の部分では、事業所（組織）としてアセスメント時期をきちんと把握していきたいと考えている。

「関係機関や保護者との連携」に関しては、「学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している」とは言えない。検討課題である。

「保護者への説明責任等」では、送迎時に於ける保護者とのコミュニケーションをより図り、連絡帳の記載内容のありようについても検討していきたい。

サービス改善計画書

策定日：2023年4月25日

事業・サービス名：放課後等デイサービス

施設・事業所名：ハイタッチ

自己評価項目	評価結果	問題点・課題	改善内容と目標	時期と期間	責任者	備考 (必要な予算等)
		働き甲斐のある職場環境づくり	職員相互のコミュニケーションの推進 ヒアリングの定例化（悩み・しんどさを打ち明け易い人間関係づくり）	一年間	富元	
		職員の資質向上	内部研修（パート職員を含む）の推進・外部研修への積極的参加/朝昼のミーティングの充実/人権意識向上に向けた自己点検シートの活用	一年間	富元	
		職員同士の連携	職員が相互の長所を認め合う職場風土づくり 「報連相」の徹底/パート職員との連携（虐待防止研修の実施・障がい特性への理解促進等）	一年間	富元	
		専門性の向上	職員（パート職員を含む）の援助スキルの向上/障がい特性への理解を深める/リスクマネジメント意識の向上/専門機関との連携	一年間	岩瀬	
		保護者との連携	実施時期を厳守したモニタリングを設定していく/保護者からの要望や苦情の内容を整理し課題を全体化	一年間	岩瀬	
		健康・衛生管理	日常的健康・衛生管理の徹底/感染症予防意識の向上と対策の徹底	一年間	岡崎	
		環境整備	危険個所の日常的且つ定期的点検の実施/バリアフリー化の推進	一年間	池本	
		各種マニュアルの周知	保護者への周知/避難訓練等の事前・事後報告の徹底	一年間	岡崎	

保護者等からの事業所評価の集計結果(公表)

公表:令和 5年 4月 28日

事業所名 児童発達支援・放課後等デイサービス ハイタッチ

保護者等数(児童数) 1 回収数 1 割合 100 %

		チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	わから ない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制 整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか				1		
	2	職員の配置数や専門性は適切であるか				1		
	3	生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか				1		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境となっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか				1		
適切な 支援の 提供	5	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	1					
	6	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	1					
	7	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか				1		
	8	活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか				1		
	9	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか				1		
保護者 への 説明 等	10	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	1					
	11	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	1					
	12	保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)が行われているか				1		
	13	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができてきているか				1		
	14	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか				1		
	15	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか				1		
	16	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか				1		

	17	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか				1	
	18	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	1				
	19	個人情報の取扱いに十分注意されているか	1				
非常時等の対応	20	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか				1	
	21	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか				1	
満足度	22	子どもは通所を楽しみにしているか	1				
	23	事業所の支援に満足しているか	1				

障害福祉サービス共通評価基準 概評 [各シート共通]

○概 評

①非該当とした項目（放課後等デイサービス、児童発達支援については「いいえ」とした項目）の説明、②独自に必要なと思われる評価項目等、③項目評価を通じて気づいた点などを記入してください。

児童発達支援について（保護者等からの事業所評価）

「環境・体制整備」では、1～4までの全ての項目に対して「わからない」の回答を頂いた。また、「適切な支援の提供」では、5～6の項目の「はい」以外、7～9の項目について「わからない」の回答だった。更に、「保護者への説明等」に於いては、10と11以外12～17までの項目に「わからない」の回答。

「非常時等の対応」では、その二つの項目共に「わからない」の回答だった。

以上、一名の保護者からの回答であるが、多くの「わからない」の回答を頂いた。毎月三回のご利用とはいえ、保護者への説明については、色々な方法を駆使してコミュニケーションをより図っていく必要性を感じている。

児童発達支援自己評価表

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5 年 4月 28日

事業所名 児童発達支援・放課後等デイサービス ハイタッチ

		チェック項目	はい	いいえ		課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	3	2		少し狭い。玄関前の駐車場(人工芝)を、送迎車を出して利用している。
	2	職員の配置数は適切であるか	5			
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	3	2		玄関先の階段を改善したい。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	5			
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	4	1		
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5			
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5			
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	2		
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4	1		
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	5			全職員が関わるようにしている。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	3	2		
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	5			
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	5			
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	4	1		
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4	1		定期的(約4ヶ月に一度)に、玩具やカードゲーム等の種類を変更している。
16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	5				

	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5			
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	3	2		全職員が揃う翌朝には、必ず実施している。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5			
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	5			
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5			
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	5			
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	2			
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	1	1		
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5			
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5			
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	1		
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	1	4		
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	3	2		
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5			
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)の支援を行っている	3	2		ペアレントトレーニングは、実施出来ていない。
保護者への説明	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5			
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	5			

責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4	1		
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		4		
非常時等の対応	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	5			
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	2	2		SNSを活用している面もある。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	5			
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5			
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	4		地域住民の招待は出来ていないが、地域行事(案内のチラシを頂き)に参加することはある。
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	5			保護者への周知をより徹底したい。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4	1		コロナ禍の為自主訓練となった。
43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	5			服薬内容の変更(処方箋のコピー)は、保護者から必ず頂いている。	
44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	1			
45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5			パート職員との共有を更に徹底したい。	
46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5			年に一度の外部研修には必ず参加して、内容を全職員で共有している。	
47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	5				

障害福祉サービス共通評価基準 概評 [各シート共通]

○概 評

①非該当とした項目（放課後等デイサービス、児童発達支援については「いいえ」とした項目）の説明、②独自に必要と思われる評価項目等、③項目評価を通じて気づいた点などを記入してください。

児童発達支援について（事業所に於ける自己評価）

一名の保護者から、いろいろな項目全般に「どちらともいえない」や「いいえ」ではなく、多くの「わからない」の回答を頂いた。毎月三日という少ないご利用回数であるが故に、また、放課後等デイサービスご利用の各保護者とは違って、昨年度初めて当事業所（児童発達支援のサービス）をご利用された為、お分かりにならないことやご不明な点が多々おありだったと推察出来る。

しかし、そうは言っても児童発達支援のサービス提供者（事業所）として保護者の感じ方・考え方・受け止め方を尊重する必要がある、その保護者の思いに即したコミュニケーションを図っていきたい。

サービス改善計画書

策定日：2023年4月25日

事業・サービス名：児童発達支援

施設・事業所名：ハイタッチ

自己評価項目	評価結果	問題点・課題	改善内容と目標	時期と期間	責任者	備考 (必要な予算等)
		働き甲斐のある職場環境づくり	職員相互のコミュニケーションの推進 ヒアリングの定例化（悩み・しんどさを打ち明け易い人間関係づくり）	一年間	富元	
		職員の資質向上	内部研修（パート職員を含む）の推進・外部研修への積極的参加/朝昼のミーティングの充実/人権意識向上に向けた自己点検シートの活用	一年間	富元	
		職員同士の連携	職員が相互の長所を認め合う職場風土づくり 「報連相」の徹底/パート職員との連携（虐待防止研修の実施・障がい特性への理解促進等）	一年間	富元	
		専門性の向上	職員（パート職員を含む）の援助スキルの向上/障がい特性への理解を深める/リスクマネジメント意識の向上/専門機関との連携	一年間	岩瀬	
		保護者との連携	実施時期を厳守したモニタリングを設定していく/保護者からの要望や苦情の内容を整理し課題を全体化	一年間	岩瀬	
		環境・衛生管理	日常的健康・衛生管理の徹底/感染症予防意識の向上と対策の徹底	一年間	岡崎	
		環境整備	危険個所の日常的且つ定期的点検の実施/バリアフリー化の推進	一年間	池本	
		各種マニュアルの周知	保護者への周知/避難訓練等の事前・事後報告の徹底	一年間	岡崎	
		関係機関との連携	保育園や学校との情報・課題共有に努める	一年間	岩瀬	